

ふくおかのふくし

Welfare of Fukuoka

ふくおかのふくし 195号 発行所/福岡県春日市原町3丁目1番地7 福岡県総合福祉センター(ウオーパルク内) 社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
TEL(092)584-3377 FAX(092)584-3369 発行日/2024年(令和6年)12月20日 編集発行/酒見英夫 印刷所/株式会社インテックアス福岡



第36回全国健康福祉祭とっとり大会
ねんりんピック
はばたけ鳥取2024
咲かせよう 砂丘に長寿と笑みの花
令和6年10月19日(土)~22日(火)

第36回全国健康福祉祭とっとり大会
ダンススポーツ交流大会 個人戦
ワルツ・タンゴで3位入賞
(関連記事4頁)

今号の内容

- P 1 令和6年福岡県社会福祉大会を開催しました
- P 4 ふくふくNEWS 第36回全国健康福祉祭とっとり大会
- P 5 キラリ☆地域のふくしびと
- P 6 社会福祉法人の公益的な活動
- P 7 赤い羽根共同募金
- P 9 ふくふくINFO

じぶんの町を良くするしくみ

赤い羽根共同募金

この広報誌は、一部共同募金の配分金を受けて発行しています。

令和6年度 スケールメリットを活かした割安な保険料で
充実補償をご提供します!

ホームページでも内容を紹介しています
<https://www.fukushihoken.co.jp>



社会福祉施設総合損害補償 しせつの損害補償

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、サイバー保険、動産総合保険、費用・利益保険)

① 基本補償(賠償・見舞費用)

▶ 保険金額		▶ 年額保険料(掛金)			
	基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)	定員	基本補償(A型)	
賠償事故に対応	身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円	1~50名	35,000~61,460円
	財物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円	51~100名	68,270~97,000円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円	以降1名~10名増ごと	1,500円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円		
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円		
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円		
お見舞い等の各種費用	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円		
	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円		
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度		
	傷害見舞費用		死亡時100万円 入院時1.5~7万円 通院時1~3.5万円		

▶ 年額保険料(掛金)	
定員	基本補償(A型)
1~50名	35,000~61,460円
51~100名	68,270~97,000円
以降1名~10名増ごと	1,500円

基本補償(A型) + 見舞費用付補償(B型) = 基本補償(A型) 保険料 + 【見舞費用加算】
定員1名あたり
入所: 1,300円
通所: 1,390円

- オプション1 ● 訪問・相談等サービス補償
- オプション2 ● 医務室の医療事故補償
- オプション3 ● 看護職の賠償責任補償
- オプション4 ● クレーム対応サポート補償

プラン2 施設利用者の補償 (普通傷害保険)

- ① 入所型施設利用者の傷害事故補償
- ② 通所型施設利用者の傷害事故補償
- ③ 施設送迎車搭乗中の傷害事故補償



プラン3 職員等の補償 (労働災害総合保険、普通傷害保険、約定履行費用保険、雇用慣行賠償責任保険)

- ① 職員の労災上乗せ補償
- ② 使用者賠償責任補償
- ③ 役員・職員の感染症罹患事故補償
- ④ 雇用慣行賠償補償



プラン4 法人役員等の補償 (役員賠償責任保険)

社会福祉法人役員等の賠償責任補償

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は「しせつの損害補償」手引またはホームページをご参照ください。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事 保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667
受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

令和6年 福岡県社会福祉大会を開催しました

県内社会福祉関係者の総意をもって
「大会宣言」「実践申合せ事項」「特別アピール」を採択

去る10月29日(火)にクローバープラザで、令和6年福岡県社会福祉大会を開催しました。本大会では、県内の社会福祉協議会や社会福祉法人・施設、民生委員・児童委員など社会福祉関係者が一堂に会し、つながり・支え合いのある地域共生社会の実現に向けて取り組んでいく契機として、記念講演、式典・総会を行いました。

記念講演 (要旨)

孤独・孤立問題の現状と「伴走型支援」
〜誰もが「生きる」と「死ぬ」を諦めなくていい
地域共生社会の実現に向けて〜

同志社大学 社会学部 社会福祉学科
教授 空閑浩人氏

NHK連続テレビ小説『虎に翼』の主人公は、弁護士試験に合格したあとの祝賀会で「生い立ちや信念や格好で切り捨てられたりしない、男性か女性かでふるいにかけれられない社会になることを、私は心から願います。・・いや、みんなですませんか? しましよよ!」と呼びかけています。生活の課題や悩みを抱えている方の支援や援助を行う上で、私たちはこの主人公のように、地域共生社会の実現に向け、さまざまな人々と連帯し行動していくために、「みんなですませんか? しましよよ!」と、お互いに呼びかけないといけません。一方、支援者からすると、

また、昨今の支援の現場では、地域とのつながりもなく、社会的に孤立した状態にあり、サービスの利用を拒んだり、支援者の関わりを拒否する人々と出会うことがあります。その方たちは「支援者の顔は笑っていても、目は笑っていない」と言われることがありますが、

当事者に関わりや支援を拒否されることは「自らの支援が受け入れてもらえない」「自らの言葉が届かない」などの感情に繋がることがあります。しかし、当事者は色々な形でSOSを発信しているのだから、なぜ支援を拒否するに至ったかを考え、支援のプロセスにおける「言葉とは何か」「コミュニケーションとは何か」「本人理解とは何か」、そして「支援とは何か」を問い直し続けることが求められています。

そして、当事者との信頼関係を築くためには、発せられた言葉に応じて支援のあり方を考え、お互いに語り合う中で安心感を与え、「一緒にいたい」「たくさん話したい」と思われることが必要です。

私たちが暮らす社会は依然として、格差や貧困、差別や分断、排除の問題を抱えています。そして、先の見通しが得られない、言い知れぬ不安感が漂う中で、例えば、SNS上の過度な誹謗中傷や、理解

福祉関係者が一堂に会する

式典・総会を開催

本大会には、県内各地から福祉施設・事業所や民生委員・児童委員などの福祉関係者約790人が参加されました。大会会長である本会 酒見俊夫会長は、開会にあたり「近年、地域社会を取り巻く環境は大きく変化し、社会福祉の枠組みでは対応しきれない様々な課題に直面しており、大規模災害の被災地復旧支援においても、県域を越えた支援が求められています。そこで本大会では、コロナ禍の経験を踏まえ、誰もが安心して暮らせる地域づくりに向け、私たち社会福祉関係者の役割を改めて確認する契機とした」と式辞を述べました。



服部福岡県知事挨拶



また、本大会の名誉会長 服部福岡県知事から「地域共生社会の実現に向けた取組の要である社会福祉関係者の皆様と手を携えて、誰もが輝ける福岡県となるよう全力で取り組んでまいります」とご挨拶をいただきました。本大会総会では、県内社会福祉関係者の総意をもって、「大会宣言」「実践申合せ事項」「特別アピール」を採択しました。「特別アピール」については、地域福祉を担う関係者の切実な総意として、厚生労働省、福岡県、県内市町村に対し要望しました。「大会宣言」「実践申合せ事項」は3頁に掲載。



酒見会長から民生委員・児童委員特別功労者への表彰状授与

永年にわたり社会福祉の
推進に貢献された637名、
124施設・団体に表彰
いたしました

福岡県社会福祉大会では、社会福祉功労者に対する表彰式を行いました。

表彰式では、福岡県知事、福岡県社会福祉協議会会長、福岡県共同募金会会長、それぞれから表彰状・感謝状の授与と併せて赤い羽根キヤッチフレーズの最優秀賞の表彰を行いました。

受賞された皆様、誠におめでとうございます。今後ますますの御活躍・御健勝をお祈り申し上げます。

特別アピール

現在、我が国は、少子高齢化・人口減少が急速に進行する時代にあつて、コロナ禍や物価高騰等の影響を受けた地域社会・経済情勢の変化により、福祉ニーズは複雑・深刻化し、社会福祉を含む持続可能な社会保障の構築、施策の充実が求められている。しかしながら、社会保障を担う福祉現場の人材不足は一層深刻さを増しており、多様な福祉人材の確保・定着は喫緊の課題である。

その解決に向け、処遇改善や社会・経済情勢、物価高騰に応じた財源確保、さまざまな働き方に対応した労働環境の整備を行い、福祉の仕事の意義や魅力を広く発信し、多様な人材の発掘・養成及び離職した福祉人材の再就職支援等に取り組む必要がある。

国は、社会福祉協議会、社会福祉法人・福祉施設、民生委員・児童委員等が持てる力を最大限に発揮し、地域におけるセーフティネットとして、複雑・複合化する福祉ニーズに対し、連携・協働して支援することを期待しているが、それらの課題に対する取組を促進するための十分な財源措置がなされていないとは言い難く、物価高騰、増加する福祉ニーズへの対応などに、今後、更なる財源の確保が必要である。

国及び地方公共団体においては、地域共生社会の実現に向け、社会福祉関係者の意見を十分に取り入れるとともに、国と地方における責任・財源の明確化を基本とした仕組みづくりを進めていただくよう、県内社会福祉関係者の総意をもって強く要望する。



我が国は、少子高齢化・人口減少、人と人とのつながりの希薄化、地域における支え合いの仕組みの脆弱化、経済的困窮や社会的孤立等の課題に直面しています。

このような状況の中、国においては、人々が様々な生活課題を抱えながらも住み慣れた地域で、自分らしく暮らしていきけるよう、地域住民や地域の多様な主体が参画し、一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をもに創っていく地域共生社会の実現を目指して様々な取組が進められています。

一方で、これらの取組において多機関連携・協働を担う社会福祉協議会、社会福祉法人・福祉施設、民生委員・児童委員等、福祉分野の人材不足は深刻であり、そのための処遇改善の取組や社会・経済情勢、物価高騰にも対応した財源確保など、多様な福祉人材の確保、養成、定着のための対策が喫緊の課題となっています。

また、突発的な大規模自然災害が全国各地で毎年起きており、被災地の復旧支援には、社会福祉関係者が担う役割が増えるとともに、県域を越えた支援も求められています。これら被災地の復旧・復興支援には、日頃からの備えと多様な主体との連携がますます重要となっています。

このような時こそ、ともに地域を支える社会福祉関係者は、コロナ禍で培った経験とこれまでの実績を活かし、それぞれの立場で質の高い専門性を発揮して地域福祉の推進役としての役割を果たすことが強く求められています。

本大会において、私たち社会福祉関係者は、これまで以上に多職種・多機関・団体との連携強化に努め、国・県・市町村と協働して、すべての人が安心して暮らすことができる福岡県づくりに一致団結して取り組むことを誓い、ここに宣言します。

実践申合せ事項

1 共に支え合う地域共生社会の実現
地域の多様な主体が参画し、制度・分野・世代を超えてつながる関係性と、住民主体による課題解決力の強化並びに包括的な相談支援体制づくりを、地域住民との連携により実践し、共に支え合う地域共生社会の実現に努めよう。

2 生活困窮者支援のための取組の強化
コロナ禍の影響や物価高騰等による県民の経済的困窮や社会的孤立等の課題解決・改善に向け、関係機関・団体の幅広い連携による生活困窮者支援に努めよう。

3 福祉人材の確保・養成・定着のための取組の強化
多様な福祉人材の確保・定着に向けた取組の充実・強化、ライフステージの変化にも柔

軟に対応する働き方の推進をはじめ、経済情勢に応じた処遇改善やキャリアアップの支援、福祉専門職としての社会的評価の向上に取り組みなど、働きやすく魅力ある職場づくりに努めよう。

4 大規模災害に備えた取組の強化
相次ぐ大規模な自然災害に備え、日頃から地域住民、関係機関・団体と協働し、地域の防災力の向上を図るとともに、福祉サービス利用者が安心してサービスを受けられるよう事業継続計画（BCP）に基づく体制強化に努めよう。

5 社会福祉法人の地域における公益的な取組の強化
社会福祉法人は、極めて公益性の高い非常営利法人として創設された経緯に鑑み、その責務として、様々な地域生活課題や福祉ニーズ・被災地の復旧、復興に対し、自らの公益性を自覚の上、積極的に役割を果たしていきけるよう努めよう。

6 福祉サービスの質の向上と利用者支援に向けた取組の強化
福祉サービスの質の向上と適切なサービス利用を支援するため、総合的な権利擁護体制の推進に努めよう。

7 共同募金運動の取組の強化
民間の社会福祉活動を財源面から支援する共同募金運動の強化に取り組み、さらなる推進・拡大に努めよう。



将棋交流会、個人3位に入賞

「第36回全国健康福祉祭とっとり大会 開催 将棋・ダンススポーツ交流会で優秀な成績に輝きました！」

全国健康福祉祭(以下、「ねんりんピック」という)が10月19日(土)から22日(火)までの4日間、鳥取県で開催されました。ねんりんピックの交流大会では鳥取県内19市町で29種目の競技が行われ、日頃からスポーツや文化を通じて生きがいづくり、健康づくりを実践している60歳以上の全国の元気な高齢者約9,500名が各地で熱戦を繰り広げました。

福岡県からは、将棋個人戦並びにダンススポーツ(ワルツとタンゴ)の3位をはじめ多くの種目で優秀賞に輝き、日頃の練習の成果を十分に発揮し、元気な福岡県をアピールすることができました。

選手団からは「競技を長く続けてきたからこそ今があり、スポーツを通じて多くの友人や素敵なチームにも巡り会えまし



た「最高の仲間と一緒に戦えたこの大会が大切な思い出になりました。参加できて良かったです」と大会を通して選手同士の交流の輪が広がりました。

スポーツや文化活動、地域貢献活動などの楽しさや生きがいを実感し、「生涯現役社会」「健康長寿社会」を築く礎として、また、生涯を通じての健康づくりに取り組むきっかけとなることが期待されます。

福岡県選手団の主な成績		
種目	チーム・個人	表彰内容
将棋	若山 征洋 氏	王秋グループ 3位
ダンススポーツ	堤 憲治郎・薫ペア	ワルツ、タンゴ 3位
ソフトテニス	あまおう福岡	優秀賞
ソフトバレー	おおき	優秀賞
ベタンク	宇野垂水	優秀賞
バウンスボール	福岡県総合型地域スポーツクラブしいコミ	優秀賞
ゴルフ(70歳以上)	村上 義春	優秀賞
ウォークラリー	福岡県ウォークラリー大会選手	優秀賞

社会福祉法人の公益的な取組



一般社団法人 福智町社会福祉連携協議会の取組



平成28年改正社会福祉法において、『社会福祉法人の地域における公益的な取組』の実施に関する責務規定が創設されましたが、福智町内の各社会福祉法人は、マンパワーや財源、公益的な取組の方法などが課題となり、単独の法人で、どのように取り組めばよいか悩んでいました。そこで、いくつかの法人の後押しを受けて、福智町社会福祉協議会が、複数法人が連携することで、これらの課題が解消されるのではないかと考え、町内の各法人に「連携・協働して公益的な活動に取り組まませんか」と趣意書をもって呼び掛けたことをきっかけに、同年、21法人が参画し、連携協議会の前身である「福智町社会福祉法人地域公益活動連携協議会」が発足しました。

まずは、どのような活動を行うべきかを整理するため、町の委員会や関係機関との協議から始め、現在では「7つの公益的な取組」と、事務の共同化に取り組んでいます。

当初は21法人で開始しましたが、現在は25法人まで増えるとともに、令和3年には、町内の社会福祉法人以外の社会福祉事業を行う法人との連携・協働を図るため、「一般社団法人」となりました。

連携協議会が行っている公益的な取組は様々で、不登校やひとり親家庭の子どもに対する学習機会の提供や、社会的に孤立されている方やひきこもりの方など地域住民の交流を促進するため、各施設・事業所の行事を交流の場として開催しています。

また、地域の身近な相談窓口として、会員法人の施設・事業所に一時相談窓口を設置したり、各施設の機能を活かし、災害時に生活避難所として活用する計画を町と協定を結ぶなど地域の課題解決に向けた活動を行っています。

特に、法人化した後に会員法人向けに開始した法人後見事業では、会員法人の施設・事業所の利用者の暮らしを支え、権利を守るために必要となる後見制度の理解を深めるとともに、後見実務者が交代しても長期にわたって一貫した支援ができる法人後見の強みを生かした体制づくりを行い、18名の法人支援員が登録し、現在4名の被後見人等の支援を行っています。



会員法人の車にステッカーを貼り、送迎等に合わせて地域のパトロールを行っています

連携協議会では、公益的な取組の他、事務の共同化・効率化を図り、消耗品の共同購入や書類の合同処分、合同での求人情報の掲載などを行っています。また、共通するテーマで職員研修を開催し、他施設職員との交流の場としても効果が表れています。

今後は、連携協議会会員法人の職員の専門的な知識や特技などを生かし、地域出前講座の開催を行い、地域の方たちと施設・事業所の交流を図る場をつくることなどを計画しています。

連携協議会の取組は、町内の社会福祉事業を行う法人が力を合わせて、複雑化・多様化している地域の福祉課題の解決、そして地域住民の福祉の向上と安心安全な地域づくりに繋がっています。

シリーズ キラリ★地域のふくしびと

Vol.22

このコーナーでは、福岡県内でふくしの仕事に携わる人の声を紹介していきます。今回は、「ふくおかライフレスキュー事業(※)」参加法人の職員にインタビューを行います。

「ふくしの仕事を始めたきっかけは？」

体育大学を卒業後、中学・高等学校で体育を教えていましたが、将来について考える中で、旧方城町社会福祉協議会(現在の福智町社会福祉協議会)の求人を見かけ、応募したのが、福祉と関わるきっかけとなりました。知識や経験もなく飛び込んだ福祉の世界でしたが、人と関わる仕事が好きだったこともあり、地元のためにできることがあればと思い職員になりました。

「現在の担当業務と仕事への思いは？」

現在は、生活福祉資金貸付事業、日常生活自立支援事業、ライフレスキュー事業、生活困窮者支援に関する事業などを担当しています。本町では、不登校児の増加が、大きな課題の一つとなっています。しかし、不登校解消に向けた支援はもとより、当事者と直に接すること自体が難しい問題でもあります。

そこで、社協とつながるためのきっかけづくりとして、「地域食堂」を企画しました。食堂には、毎回子どもや地域の方40〜50名の参加があり、回を重ねるごとに協力者も増えています。ここでの出会いを生かした支援を検討しています。

また、後輩職員が、地域の課題解決に向けた取組を企画し、地域住民と一緒に実現させ、仕事のやりがいを感じている姿を見ることは、私のモチベーションにもなっています。

入職当時の局長が、積極的に福祉教育や見守り活動の促進、ボランティア連絡協議会を立ち上げられている姿を見ながら、私も一緒に取り組む、支えていただきたように、私も後輩職員の支えになれるような存在を目指しています。

「仕事のやりがいや、大事にしていることは？」

相談者本人の気持ちに向き合い、私たちができることを真摯に伝えるよう意識しています。

また、社会的に孤立する人も増えており、当事者だけでなく支援者も孤立している場合があると感じています。地域の中に社会資源はたくさんありますが、当事者も支援者も知らない、あるいは繋がりが出来ていないという課題もあります。だからこそ、当事者も支援者も「誰か」とつながり孤立しない地域づくりを進めることが大切だと感じています。

「めざす『ふくしびと』とは？」

私自身が、幼い頃、家庭の事情でやりたいことが出来なかった時期があった経験から、町の子どもたちには、自分の将来の夢が持ち続けられるような支援ができればと思っています。また、福祉教育などを通じて、自ら社会課題を見つけ、自分たちに何ができるかを考え、実行できるように成長を促していきたいと思っています。

これからも、福智町らしい地域づくりを町民の皆さんと進めていきたいです。

『つながる』をきっかけに 町らしい地域づくりを進めていきたい



中村 順吾 さん
なかむら じゅんご

事業所名：社会福祉法人 福智町社会福祉協議会
役 職：地域福祉課 課長

※ふくおかライフレスキュー事業では、福岡県社会福祉法人経営者協議会を中心に、複数法人の連携によって生計困難者等に対する相談支援事業を行っています。



貴会長から福岡県共同募金会長表彰者代表 大野城市緑化推進協議会 会長 蒲浦 徹さんへ表彰状授与



優秀地区表彰者代表 福岡県共同募金会 みやま市支会 会長 金子 志郎さん



赤い羽根キャッチフレーズ最優秀作受賞 辻 結夢さん

令和6年 福岡県共同募金会 会長表彰



赤い羽根キャッチフレーズ 優秀作・特別賞を発表

令和6年10月29日、春日市のクローバープラザで福岡県社会福祉大会が開催されました。大会では、長年にわたり、共同募金運動に功績のあった個人及び団体等が表彰され、今年度は、個人20名、8団体、優秀地区として34の市区町村支会が選ばれました。

表彰式では、福岡県共同募金会会長表彰受賞者を代表して、大野城市緑化推進協議会に、優秀地区表彰者を代表して、福岡県共同募金会みやま市支会にそれぞれ受賞いただき、本会貴正義会長から表彰状が授与されました。

また、本年度の赤い羽根キャッチフレーズ募集には、45の小・中・高・特別支援学校から、5001点の応募をいただき、作品の中から『たすけあうやさしいハート まちじゅうに』が最優秀作に選ばれました。また、優秀作12点選ばれ、最優秀作に選ばれた福岡市立当仁中学校2年辻結夢さんに代表して受賞いただきました。

受賞されました皆様、おめでとうございます。

つながり ささえあう みんなの地域づくり 歳末たすけあい運動推進中



歳末たすけあい活動の様子

共同募金運動の一環である「歳末たすけあい運動」には、市区町村の区域ごとに行う「地域歳末たすけあい」と県域で行う「NHK歳末たすけあい(県域)」の2種類があります。

「地域歳末たすけあい」は、毎年、12月1日から31日までの1カ月間、「つながりささえあうみんなの地域づくり」をスローガンに本県をはじめ全国各地で取り組まれており、新たな年を迎える時期に支援を必要とする人たちが孤立することなく安心して暮らすことができるように、地域住民の方々や民生委員・児童委員、社会福祉協議会などの関係団体等が今年度実施する様々な福祉活動を資金面で支援するものです。その他、地域福祉サービス事業などにも使われます。

また、「NHK歳末たすけあい」は、減収や失業により生活に困窮している人々や社会とのつながりが希薄になり、社会的に孤立・孤独の状況にある人々など、課題を抱える高齢者、障がい者、子どもたちを支える活動に役立てられており、全国各地の共同募金

会とNHK等が共催で実施しています。本県でお寄せいただいた募金は、県内の児童福祉施設の中・高等学校卒業生への進学・就職準備金や、在宅で介護を行っている方を支援する「在宅介護者の会の支援」などに活用させていただきます。

本年度、福岡県共同募金会では、住民同士の交流や助け合いの活動を通じた地域のつながりづくりの重要性を改めて住民に発信するとともに、長引いた感染拡大の影響や物価高騰等による生活困窮や社会的孤立・孤独などの課題、そして新たに顕在化している生活課題の解決に向けた取組を支援してまいります。

皆様の温かいご協力をよろしくお願いたします。

NHK歳末募金受付窓口

- ◆NHK福岡放送局
※土日は募金箱の設置のみ
- ◆NHK北九州放送局
※土日は休館

受付期間は12月1日から12月25日
受付時間は9時30分～17時

赤い羽根共同募金で「PayPay」が利用可能になりました



PayPayでご寄付いただけます
※匿名寄付も可能です

中央共同募金会では、10月から、オンライン上の寄付の支払い方法として、PayPay株式会社が提供するキャッシュレス決済サービス「PayPay」を導入しました。また、「PayPay」による「匿名寄付」も導入されています。

ぜひご寄付を通じて、さまざまな社会課題の解決を支援するために「赤い羽根」へご協力ください。

※PayPay残高(PayPayマネー)のみご利用いただけます。PayPayマネーライト、「PayPayポイント」、「PayPayクレジット」はご利用できません。また、寄付金額に対しての「PayPayポイント」の付与およびPayPayステッは対象外となります。

※匿名寄付の場合は、領収書の発行ができません。



福岡県共同募金会では、共同募金の使いみちや共同募金運動について等をInstagramで配信しています。ぜひご覧ください。

【問い合わせ先】
福岡県共同募金会 ☎ 092-584-3388

ふくおかきずな
フェスティバル
の開催



日時
令和7年2月16日(日)
10時~15時

会場
クローバープラザ(春日市)

内容

●**基調講演**
「楽しい助け合い活動! ボランティア地域活動のすすめ! ~生きがい・やりがい・楽しさ・自分発見の生き方探し~」

講師
ふくしと教育の実践研究所
SOLA 主宰 新崎 国広 氏

●**テーマ別分科会**

分科会I
「子どもたちが活躍・輝く居場所」

地域やボランティアの力で課題解決や居場所づくりに取り組んでいる団体の実践事例をとおして、誰もが安心して暮らせるまちづくり、地域福祉について考えます。

分科会II
「ボランティアと学ぶ・育む福祉体験」

ボランティア活動・福祉体験「福祉教育」の意義について実践報告をとおして、ボランティア活動・福祉体験のあり方について共に考えます。

分科会III
「ふくおか“ミライ”会議」

これからの未来を担う学生たちの実践報告をとおして、地域や社会福祉協議会などの多様な関係機関・団体とのつながりづくりについて考えます。

●**おやこ“きずな”イベント**
・親子で楽しめるイベント
・防災イベント
・読み聞かせ

■**スタンプラリー同時開催**
(小学生まで参加可)

※入場無料
※基調講演、各分科会のみ事前申込必要(1/31@まで)

☎ 地域・ボランティアセンター
TEL 092(584)3377

募 集

中国帰国者との語りかけ
ボランティアの募集

介護サービスの利用にあたって、中国帰国者の方々께서少しでも安心して介護サービスの場に馴染んでいけるよう、中国語による語りかけを行うボランティアを募集しています。

●**活動内容**
当センターで、帰国者とボランティアさんの希望等を調整し、月に1~2回(1回あたり1時間程度)、中国帰国者が利用するデイサービスセンター等を訪問し、帰国者とお話をします。(事前研修あり)

詳しくは下記センターにお問い合わせ下さい

☎九州中国帰国者支援・交流センター
TEL 092(589)6667

催 し

学生のための福祉の
就活フェスタ
in Fukuokaの開催



日時
令和7年3月21日(金)
3月22日(土)
両日ともに13時~17時

会場
アクロス福岡イベントホール
(福岡市)

内容
●施設・事業所PRタイム
●施設・事業所と参加者との就職説明会(1日あたり40ブース)
21日: 児童・障がい(障がい児含む)・保育
22日: 高齢・障がい・複合・医療・行政(市町村)

●各相談コーナー

対象
令和7年3月末卒業生、福祉の仕事に関心のある学生
※参加申込等についてはホームページをご覧ください

☎福祉人材センター
TEL 092(584)3330

寄付・寄贈

福岡トヨペット株式会社様
からの寄贈

今年度も、福岡トヨペット株式会社から福岡県内の社会福祉施設に車いす23台を寄贈いただきました。

この取組は、平成19年11月30日に同社が創業以来新車累計販売台数60万台を達成されたことを記念して始められたもので、社会貢献活動の一環として、毎年多数の車いすを寄贈いただいています。

誠にありがとうございました。

株式会社ツルハホールディングス様
からの寄贈

株式会社ツルハホールディングス様から福岡県内の社会福祉施設に車いす15台を寄贈いただきました。

この取組は、店舗を展開している地域への貢献を願い平成12年より始められたもので、その趣旨に賛同いただいたクラシエ(株)様と共同で全国の店舗で行ったキャンペーンの売上の一部で購入されています。

誠にありがとうございました。

公益社団法人福岡県医薬品
配置協会様からの寄贈

公益社団法人福岡県医薬品配置協会様よりキズ絆創膏300個を寄贈いただきました。

寄贈いただきましたキズ絆創膏は、児童福祉施設の子どもたちに有効に活用させていただきます。

誠にありがとうございました。

株式会社モダンプロジェ様
からの寄贈

株式会社モダンプロジェ様より、社会貢献の一環として、本会を通じて、県内児童福祉施設の子どもたちに野球観戦チケット100枚を寄贈いただきました。

誠にありがとうございました。

2025年度版社会福祉手帳、民生委員・児童委員手帳の販売を開始しました

福岡県のふくしの
情報をポケットサイズに
まとめました

1月
始まり 週間
縦長
サイズ



900円(税込、送料別)

HP掲載の申込用紙に記入のうえ、郵送またはFAX、メールで下記までお申し込みください。後日、現品納入の際に請求書・振込用紙を同封いたします。(メールで申し込む場合はタイトルに「手帳発注」と記載し、申込書を添付下さい)

1~2冊 210円
3~6冊 430円
7冊~35冊 700円
36冊以上 930円



仕 様

主な掲載内容	社会福祉関係法律の要点や各種相談窓口の連絡先など
本体サイズ	縦 14cm、横 8.5cm、厚さ 1.5cm
特記事項	始まり月・終わり月: 2025年1月~2026年3月(15ヶ月) 始まり曜日: 月曜始まり ページ数: 450ページ

総務企画部 総務課
〒816-0804 春日市原町3-1-7 クローバープラザ西棟6階
TEL: 092(584)3377 / FAX: 092(584)3369
Mail: info@fuku-shakyo.jp

ホームページはこちら▶



あなたのご支援を!!
がんばろう!! 能登!!

石川県では被災地支援のため、日々ボランティアが駆けつけていますが、まだまだ支援が必要な状況です。(①)

また、九州ブロックは珠洲市で継続的に被災者支援を行っており、珠洲市災害ボランティアセンターでは災害ボランティア支援、被災者支援活動等を行うための支援金を募集しています(②)

みなさまの温かいご支援とご協力をお願いいたします。



①石川県
災害ボランティア
情報はこちら



②珠洲市
災害ボランティア
センター支援金
サイトはこちら